

大町岳陽高等学校同窓会
創立5周年記念誌

大町岳陽高等学校同窓会

目次

「ごあいさつ」

「創立五周年記念誌」発刊に寄せて

「コロナ禍の学校」

「ひとつ屋根の下で」

「大町岳陽高等学校創立五周年に寄せて」

「五周年に寄せて」

大町岳陽高等学校同窓会の歩み

五周年記念事業 一 金森宰司氏 絵画寄贈

二 同窓会旗・校銘旗制作

校銘旗寄贈

大町岳陽高等学校同窓会 会長

諏訪 光昭

長野県大町岳陽高等学校 学校長

松田 章利

長野県大町岳陽高等学校 生徒会長

和田 知里

長野県大町岳陽高等学校 初代校長

藤江 明雄

長野県大町岳陽高等学校 第二代校長

山崎 裕史

長野県大町岳陽高等学校 第三代校長

薄井 康央

「ごあいさつ」



大町岳陽高等学校同窓会

会長 謙訪 光昭

二〇一六年（平成二十八年四月一日）長野県大町岳陽高等学校

校は開校しました。同年、六月十一日、大町岳陽高等学校同窓会の設立総会が大町市内のJAアプロードで、関係の皆様多数ご出席のもとで、設立総会が開催され、同窓会活動が始動しました。早くも五年が経過しました。改めて、これまで大町岳陽高等学校同窓会に対しまして、力強いご支援、温かなご協力をお寄せいただいたことに対しまして感謝申し上げます。

設立総会を迎えるにあたっては、旧大町高等学校・大町北高等学校両校の同窓会役員の皆様を中心に、二〇一五年から「大町岳陽高等学校同窓会設立準備会」を組織していただき、同窓会の創立に向け精力的に、熱心に議論を重ね、ご準備いただきました。加えて、旧大町高等学校・大町北高等学校の両校が再編統合され、「新校」の開校が決定してから、両校役員の皆様を先頭に、「新校」でも同窓会を結成して、在校生支援と共に、母校である両校同窓生の心の拠り所となる同窓会のあり方、必要性についても検討が重ねられたと、お聞きいたしました。

百十五年・百三年の歴史を刻み、大きな足跡、人材を輩出いたしました旧大町高等学校・大町北高等学校の先輩各位の母校を愛する思い、次代を担う生徒の皆さんに寄せる愛情に対しまして、重ねて敬意を表し、感謝申し上げます。

この間、同窓会長野支部、安曇野支部、松本支部を設立、発足していただき、本部と一緒に、在校生の学業、スポーツ、文化活動に対する支援、協力、学校の環境整備、同窓生の親睦、交流、情報交換などに特段のお力をいただいております。

開校当時は新校舎建設中で、プレハブ校舎を併用、活用しながら授業を進めていました。ようやく開校から二年後、二〇一八年（平成三十年）五月に、足掛け七年に及ぶ校舎建設、環境整備事業等が無事竣工しました。

同年六月十六日、新体育館でPTA・学校・同窓会で組織した「開校記念事業実行委員会」主催による、「開校記念式典」を新体育館で開催しました。在校生、同窓生、地域住民の皆様など一千名を超える方々にご出席いただき、新校舎見学も実施し、改めて新たなスターを切ることができました。

生きる力を身に付けた卒業生は、将来を担う人材として、五期生まで旅立ちました。生徒の皆さんは落ち着いた環境の中で、学習にも意欲的に精一杯取組み、歴代校長先生を先頭に、諸先生方からは丁寧に、愛情あふれるご指導をいただいています。おかげさまで、九割近い生徒がクラブ活動に所属し、文武両道、各分野で県内はもとより、全国レベルで大きな実績と成績を残している姿を目の当たりにさせていただき、頼もしく感じています。

同窓会といたしましては、この先も、新たな歴史を着実に刻み続けている生徒の皆さんとの、お一人おひとりの豊かな感性と個性が、十分發揮できる環境づくりとともに、同窓生の皆さんのが、社会の中で、楽しく絆を深めることのできる同窓会を目指して邁進してまいります。ご指導、ご鞭撻賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

「創立五周年記念誌」発刊に寄せて



長野県大町岳陽高等学校
校長 松田 章利

創立五周年記念誌発刊にあたり、本校の誕生と成長を記録し、「創立五周年誌」として次代に遺そと始められた本誌が編集委員各位のご尽力によって立派に完成し、ここに刊行の運びになりましたことに心より御礼申し上げるとともに、大きな喜びとするところであります。

幅広い進路希望に対応するためのコースを持つ普通科と、専門性の高い発展的、課題解決型の学習を行う学究科の二学科を設置した大北地区の一大拠点校として平成二十八年に開校しました。保護者や地域の皆様はもとより、広く中信地区全域も含め、多くの方々からの本校にお寄せいたいでいる期待の大きさと、我々に課せられた責務の重さに、教職員一同身の引き締まる思いであります。

本校の校名の「岳陽」は、北アルプスに抱かれた自然環境のもと、お互いに切磋琢磨しあいながら、陽が昇るがごとく育つてほしいと思いを込め名づけられました。その名の通り、恵まれた環境の中で、生徒たちは先人の跡を受け継ぎ、新しい未来を切り開こうとする原動力となることを願い、伸び伸びと学習に、クラブ活動にと取り組んでいます。

島崎藤村が若き頃刊した第五詩集「落梅集」の序文の一節に
「誰か旧き生涯に安んぜんとするものぞ、おのがじじ

新しきを開かんとおもへるぞ若き人々のつとめなる」とあります。

開校にあたって、平成二十年度から大町高等学校と大町北高等学校の教職員が、両校がこの地で果たしてきた大きな役割と、それぞれの長い歴史の中で築き上げてきた豊かな伝統を継承・発展させることを確認しながら、「豊かな心と健やかな身体を持つた人間」「豊かな創造力と力強い実践力を持つた人間」「地域の産業や文化を理解するとともにその将来を担う人間」を育成するという教育目標を学校の使命として掲げ、「進取の気性に富み、真理を深く追究し、国際的な視野を持つた人間を育成すること」を学校目標に掲げました。まさしく、大町岳陽高等学校の誕生は「新しきを開かん」とする時代の予望、熱意であり、地域の人々の若人へ託した一步であります。

蝦夷の地・北海道に多く自生する松の一種に蝦夷松があります。北海道東部に広がるこの蝦夷松の原生林に分け入つてみると、不思議な現象に出会います。それは、方向こそまちまちですが、どの蝦夷松をとつて見ても、数本から十数本の単位で一直線に並んでいるのです。これはなぜでしょうか。調査の結果、次のことが分かりました。秋、蝦夷松の実は一斉に大地に降ります。しかし、溶岩の上を苔だけが覆つただけの原生林では養分が少なく、発芽こそすれ、大きく育つことはできません。厳しい冬の寒さの中で次々と枯れていきます。ただ、倒木の上に降り立った種のみが朽ちた倒木を養分にしつかりと大地に根を張り、大きく成長することができるのです。倒木の上に生えた蝦夷松のみが残るため、一直線になるのです。倒木が養分となり、次の木を育て、命が更新される。これを蝦夷松の倒木更新といいます。

生徒たちは今、大町高等学校と大町北高等学校の伝統を受け継いだ百年をゆうに超える気風とともに、進取の気性に富み、養分を蓄えた大町岳陽高等学校という木の上に降り立っています。本校の気風、気性を養分に、保護者・地域・同窓会の皆様が注いでくれる水や光を受けて、生徒がしっかりと根を張り、活動する社会の風雪に耐えて、立派な大樹となるよう、われわれ教職員一同、日々の教育活動に専念しております。

創立五周年記念誌発刊にあたり、この創立の精神をいま一度しつかりと受け止め、本校の現在あることに感謝するとともに、覚悟を新たにして本校のより一層の発展のために更なる努力を重ね、今後の校歴に輝かしい頁を加えていかなければならぬと考えております。



大町岳陽高等学校 正面玄関

大町岳陽高等学校 校章

葉のイメージを、高山植物のミネウスユキソウを用いて「G」を描いています。

山は北アルプスをイメージし、三本の線を仁科三湖として、教育目標の

- 1) 豊かな心と健やかな身体
 - 2) 豊かな想像力と力強い実践力
 - 3) 地域の将来を担う人間
- と関連付けています。



「コロナ禍の学校」

長野県大町岳陽高等学校

生徒会長 和田 知里

令和三年度の大町岳陽高校の生徒会長を務めている和田知里です。昨年、世界規模で新型コロナウイルスが流行し、今まで通りの生活に制限がかかってしまい大変なことがたくさんありました。今年は文化祭が無事に行われましたので、文化祭とコロナ禍の学校生活での変化を簡単にお伝えしたいと思います。

・普段の学校生活
新型コロナが流行り始めてから一番の変化は、全校生徒や先生方の新型コロナ感染に対する意識だと思います。例えば食事前の手洗い・うがいに加え、食事中の黙食、授業中の換気などを意識して自分から動いて感染予防を心がけている人が増えてきました。保健委員が言うには、新型コロナウイルス感染症が始まつてから、石鹼の減りが大幅に早くなつたそうです。意識の変化以外には、私たちの行動にもいくつか制限をかけられるようになつてしましました。生徒総会や校長講話（全校を集め行う行事）などは体育館で行うことができなかつて、機器を使って行わなければならぬ。学校に来る前には必ずその日の体調チェックや体温チェックなどを行わなければいけない、などができてしまいました。

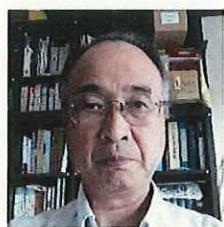
・岳嶺祭

大町岳陽高校最大の行事は、岳嶺祭です。私は去年、執行補佐として本部会を支えていましたが、新型コロナの影響で十分な岳嶺祭を行うことができず、とても後悔した思い出がありました。その思いを抱き、四月から今年の岳嶺祭の準備に役員一同で取り掛かりました。一番の敵はやはり新型コロナで、岳嶺祭ギリギリまで体育館などの施設の人数制限などが決められず大変でした。人数制限の関係で一年生には小体育館でライブ中継を見てもらつたり、一般公開では一日目が奇数のクラス、二日目が偶数のクラスの家族が見にこられる、などといった制限をかけたりしました。多少のミスは見られましたが、無事につ一つの企画が終わつていきました。最後は、岳嶺祭一番の盛り上がりを見せるといつてもいい花火です。例年通り多くの方に参加していただくことができたし、皆さんに喜んでもらえたと思います。そして、無事に全企画を終わらせることができました。多少の制限がかけられた岳嶺祭でしたが、それでも全校生徒が先生たちと力を合わせ無事に行うことができたし、大成功を収めることができたのでよかったです。

大町岳陽高校の伝統である全校登山は行うことができなかつたのですが、アジア・アフリカ難民支援運動は岳陽周辺の方々に協力してもらい行うことができました。今までの行事とは少し変わつてしまつたものなどがありましたが、皆さんが楽しめるようなものにできたのでよかったです。

このようにコロナの関係で普段できることができなくなつてしまふ、行うのが難しくなつてしまふなどといったことがあります。とても不便でしかたなかつたです。そのような中でも、大町岳陽高校は無事にコロナでの変化を乗り越えることができたと思うのでよかったです。

「ひとつ屋根の下で」



長野県大町岳陽高等学校

初代学校長 藤江 明雄

分に訴えてくれる生徒もいるかも知れない。」と思い、毎朝七時から始業のチャイムが鳴るまで正門で生徒を迎えることにしました。

生徒は実に元気よく挨拶をしてくれました。そのうちに中学生や教え子、保護者のみなさん、地域のみなさんとも挨拶をかわすようになりました。慣れてくると、生徒の様子もわかるようになりましたし、生徒の方から話しかけられたり、飴玉やお菓子をもらったり、生徒との距離が縮まったのを感じました。また、保護者や同窓会の方からお茶のペットボトルをいただくこともありました。学校の中で校長は孤独な存在です。学校の課題を何とかしようとして始めた校門での挨拶ですが、時間が経つにつれ、生徒や地域の皆様から元気をいただくことが多くなりました。「ひとつ屋根の下で」の課題が解決したとは思いませんが、何もしないで孤独に考えているよりはましだと思えるようになりました。

統合は大町北高校及び大町高校の二・三年生は大町岳陽高校へ全員が転校するという形の一斉統合でした。開校当時は、教室棟がまだ完成しておらず、グラウンドに仮設のプレハブ校舎が建てられていました。

私のミッションは新校をひとつ屋根の下でスムーズに船出させることでした。統合にあたり様々な角度から準備委員会で何度も話し合いを重ねてきました。しかし、伝統も校風も気質も違う生徒を何とかひとつ屋根の下で岳陽の生徒という自覚のもと学校生活を送らせるのは容易なことではありませんでした。それを心配して、何人もの先生が校長室に話においてになりました。どうしたらよいか。考えた末、「校長室に閉じこもっていてもだめだ。ともかく生徒に接する機会を持つ。毎朝校門に立ち生徒を迎える。生徒の姿もわかるし、何か直接自

十二月のある日、生徒会の役員をしているNさんという女子生徒が校長室に来ました。クリスマスの朝、白いひげと帽子をかぶつてサンタクロースになつて校門で生徒を迎えてほしいという依頼でした。私は快諾し、当日は山用の赤い雨具をつけて正門に立ちました。【写真①】生徒はもちろんですが、私の前を行き交う地域の皆様にもたいへん喜んでいただけました。このことは岳陽高校在職中のよい思い出となっています。

初代校長としての重責をとても果たせたとは思えません。在校中、支えて下さった同窓会や保護者の皆様、地域の皆様、先生方、生徒諸君方に感謝しつつ、母校のますますの発展を心よりお祈りいたしております。



写真① 塩原書店 塩原義夫氏 撮影提供



大町岳陽高等学校除幕式 平成 28 年 4 月 1 日

「大町岳陽高等学校創立五周年に寄せて」

長野県大町岳陽高等学校

第二代学校長 山崎 裕史

また、両校の特徴ある行事である全校登山やアジア・アフリカ難民支援運動（アジアフ活動）などは、先生方のご苦労と同窓会や地域の皆様のご協力で実施され、大町岳陽高校ならではの行事として、今後も継続されていくのではないかと思います。私も勤務しているうちに、槍ヶ岳をはじめとする北アルプスの山々に登つてみたかったのですが、実現できなかつたことが心残りです。

私が前任の藤江校長先生から引き継ぎ、大町岳陽高校に赴任したのは、開校二年目の平成二十九年の四月一日でした。県教委事務局に勤務していた時に、大町高校と大町北高校、両校の閉校式に立ち会う機会がありましたので、赴任には不思議な縁を感じました。また、四季折々に見られる北アルプスの雄大な景色を毎日見ることができた喜びを感じていました。

一斉統合でしたので、一・二年生は大町岳陽高校の入学生、三年生は大町高校と大町北高校で入学した生徒が三学級ずつあり、一つの高校に三つのカリキュラムがあるという状況でした。平成三十年三月には、大町高校、大町北高校で入学した最後の生徒を送り出し、理数科が閉校しました。両校の歴史と伝統を引き継ぎながら、新しい学校を作っていくことで、先生方と一緒に様々なことを考え、取り組みました。大町岳陽となり普通科と学究科の二つの学科となりましたが、どうしても統合前の両校のイメージが残り、新しい高校であることを中学生やその保護者の皆さんに理解していただくのに苦労したことを覚えています。

校舎は全県で一番新しく、校舎をつなぐ渡り廊下のないロの字型の配置、冬でも集会やクラブなどに利用可能な広い講義室や南北のロビーは、雪国には大変ありがたいものでした。

赴任をした年に、最後の工事となる大体育館の建設が始まり、翌年の体育館の完成とグランド整備ですべての工事が終了し、体育館の完成を待っていた開校記念式典を、多くのご来賓の皆様のご列席のもと、平成三十年六月十六日に盛大に行なうことができました。あらためて、大町岳陽高校として新たな一步を踏み出した区切りとなりました。

同窓会の皆様とお会いするたびに、統合されたことでの母校に対する複雑な思いを感じることもありましたが、同窓会の諒訪会長を中心に、大町岳陽高校に対する期待と、後輩に対する強い思いを感じました。

また、大町市唯一の県立高校として、大町市の皆さんには、野球場や体育館などの設備や、様々な面でご協力をいただき、大町岳陽高校が大町市とともににあることを強く感じました。これからも、大町岳陽高校が岳北の中心校とし、さらなる発展をされることを祈念いたします。

「五周年に寄せて」



長野県大町岳陽高等学校
第三代学校長 薄井 康央

大町岳陽高等学校並びに大町岳陽高等学校同窓会が五周年を迎えたことに、心よりお祝いを申し上げます。私は、山崎裕史校長先生の後任として校長を拝命し、令和元年度、二年間勤務させていただきました。着任の前年には、大体育館の完成によりすべての施設が整い、また岳陽生として入学した初めての生徒が卒業しました。まさに大町岳陽高校が名実ともに大町市唯一の高等学校として羽ばたいていく大切な時期がありました。

着任してまず心を打たれたのは、素直で学校生活に一生懸命取り組んでいる生徒の姿でした。統合により学校規模が拡大した結果、多様な教育活動が可能となりました。幅広い目標を持つ生徒たちが学んでいますが、生徒はそれぞれの目標に向かって努力し、そして成果を上げています。こうした大町岳陽高校の現状は、再編統合に際しての地域の皆様、同窓生の皆様、そして先生方のご尽力の賜物であります。そして、同窓会の皆様には、岳陽の生徒の学びのために、物心両面にわたる厚いご支援をいたしておりますこと深く感謝申し上げます。

大町岳陽高校の一学期は特に盛りだくさんの行事が計画されています。大町北高校の伝統を引き継ぐアジア・アフリカ難民支援運動、大町高校の伝統を引き継ぐ全校登山、そして生徒会

最大の行事である「岳嶺祭」。在任一年目は、岳陽の基盤であるこれらの行事を天候にも恵まれて無事終えることができました。また、同窓会総会、各支部総会にもお招きいただき、着実な歩みを続ける大町岳陽高校の様子を報告させていただきました。

ところが、開校五周年に向けて岳陽の枝葉をさらに広げるとともに、新たな時代に対応する「探究的な学び」を推進しようとしている矢先、思いもよらなかつた新型コロナウイルス感染症への対応が降りかかってきました。在任二年目は残念なことにコロナ対応に明け暮れる日々となってしまいました。刻々と変化する情勢のなかで、これまで経験したことのない対応を迫られる場面が数多くありました。それでも、二ヶ月近くに及んだ臨時休業にあたっては、先生方と知恵を絞りながら、「思文堂の扉」と名付けた特設サイトを活用したりモート授業を実施し、夏季休業の短縮と合わせて予定した授業時数を確保しました。同窓会、PTAのご支援で全HR教室に電子黒板を整備できることは、コロナ対策にも大いに役立ちました。しかし、行事やクラブ活動の大会などの中止や延期はやむを得ない事とはいえ、その教育的な損失は計り知れないものがありました。改めて、「当たり前のこと」の大切さ、対面での活動の重要さをいやといふほど思い知らされました。

未だ先の見えないコロナ禍の中で、様々な制約はありますが子どもたちの学びを止めるわけにはいきません。同窓会の皆様には、岳陽の生徒の学びのために、物心両面にわたる厚いご支援をいたしておりますこと深く感謝申し上げます。

大町岳陽高等学校同窓会の歩み

○大町岳陽高等学校同窓会設立に向けた準備

年次 検討経過

平成 24 年度 (1) 事前協議 (準備会設立前の両校同窓会役員による協議)

2012. 12. 8 •懇話会
1. 25 •懇話会

平成 25 年度

2013. 4. 17 •懇話会
6. 5 •懇話会
7. 24 •小委員会

平成 26 年度

2014. 5. 7 •小委員会
7. 23 •小委員会
11. 19 •小委員会

平成 27 年度 (2) 準備会

2015. 9. 7 •第 1 回 新校同窓会設立準備会
11. 12 •第 2 回 //
12. 3 •第 3 回 //
1. 26 •第 4 回 //
2. 25 •第 5 回 //
3. 17 •第 6 回 //

平成 28 年度

2016. 4. 25 •第 7 回 //
5. 17 •第 8 回 //



大町高等学校 校歌碑



大町北高等学校 校歌碑

○大町岳陽高等学校同窓会設立へ

年次 同窓会事業の出来事

平成 28 年度

2016. 4. 1 • 大町岳陽高等学校除幕式
 4. 7 • 大町岳陽高等学校開校式・入学式
 6. 11 • 大町岳陽高等学校同窓会設立総会
 • 大町岳陽高等学校同窓会設立記念講演会

講師 平林国彦氏（UNICEF東京事務所代表）

大町高等学校（第29回卒） 昭和52年3月卒業

演題 「私が学んだ、自分と世界を変える7つの力」

- 11. 5 安曇野支部総会
 - 11. 18 長野支部総会
 - 1. 24 役員会
 - 3. 3 大町岳陽高等学校卒業式

大糸タイムス 掲載記事
平成28年6月12日付

平成 29 年度

- 2017. 4. 6 ・大町岳陽高等学校入学式
 - 4. 28 ・役員会
 - 5. 26 ・役員会
 - 6. 15 ・役員会
 - 6. 24 ・大町岳陽高等学校同窓会総会
 ・大町岳陽高等学校同窓会講演会
- 講師 中村清氏（ザ・ペニンシュラホテルズ日本・韓国地区
営業本部長）
大町高等学校（第 24 回卒） 昭和 47 年 3 月卒業
演題 「旅とおもてなし」



平成 29 年度 同窓会総会

昭和 21 年 8 月 10 日
第 3 種郵便物登録

10

旧 2 校の思い通じる会に

岳陽高同窓会 総会で中村清氏講演

イムス

あいさつする同窓会会長

大町市の大町岳陽高校
同窓会の総会はこのほど
向市の「A 大北会
館アプロード」で開い
た卒業生である会員
約 50 人が出席し、本年
度事業や予算などを決
めた。総会に合わせて
講演会を行い、辰と
おもてなし」と題して
大町高校第 24 回卒の
ザ・ペニンシュラホテ
ルズ日本・韓国地区販
業本部長・中村清氏が
自身の仕事を通じた経
験、体験などについて
だべりあいさつした。

講演した。
本年度は、文化祭や
金球登山など学校行事
への協力や大町岳陽高
校開校記念式典(学校
同窓会 P T A 共催)を
来年 6 月に開催する。
また、創創や事業計画、
事業報告などを掲載す
る同窓会ホーリー

講演した。
本年度は、文化祭や
金球登山など学校行事
への協力や大町岳陽高
校開校記念式典(学校
同窓会 P T A 共催)を
来年 6 月に開催する。
また、創創や事業計画、
事業報告などを掲載す
る同窓会ホーリー

- 11. 11 ・安曇野支部総会
- 11. 16 ・長野支部総会
- 11. 13 ・役員会
- 12. 19 ・同窓会 P T A 合同役員会議
- 1. 16 ・第 1 回大町岳陽高等学校開校記念事業実行委員会幹事会
- 1. 24 ・第 1 回大町岳陽高等学校開校記念事業実行委員会
- 2. 22 ・第 2 回大町岳陽高等学校開校記念事業実行委員会幹事会
- 3. 2 ・大町岳陽高等学校卒業式
- 3. 20 ・第 3 回大町岳陽高等学校開校記念事業実行委員会幹事会
- 3. 28 ・第 2 回大町岳陽高等学校開校記念事業実行委員会

大糸タイムス 掲載記事
平成 29 年 6 月 29 日付

平成 30 年度

- 2018. 4. 5 ・大町岳陽高等学校入学式
- 4. 27 ・役員会
- ・評議員会
- 5. 9 ・第 4 回大町岳陽高等学校開校記念事業実行委員会幹事会
- 5. 19 ・松本支部発足総会
- 5. 22 ・第 3 回大町岳陽高等学校開校記念事業実行委員会
- ・役員会
- 5. 30 ・第 5 回大町岳陽高等学校開校記念事業実行委員会幹事会
- 6. 16 ・大町岳陽高等学校開校記念式典
 ・大町岳陽高等学校開校記念講演会
 講師 三戸呂拓也氏（クライマー）
 大町高等学校（第 55 回卒）
 平成 15 年 3 月卒業
 演題 「山が教えてくれたもの」

- ・評議員会
- ・大町岳陽高等学校同窓会総会

8



イムス

大町岳陽高の全工事完了

新大体育馆で開校記念式典

今朝、大町岳陽高が完成した。この式典は、新校舎の落成式である。式典には、大町市長や、地元住民、関係者らが出席した。式典では、新校舎の外観や内装、設備などを紹介され、多くの生徒たちが見学した。

式典は、大町市長による開校宣言から始まり、校歌斉唱、生徒による祝辞朗読、校長による訓辭など、充実した内容で進行された。

式典終了後、生徒たちは新校舎内を自由に見学することができた。新校舎は、従来の校舎よりも広く、明るく、設備も充実している。また、校舎内には、図書室、教室、体育館、食堂など、様々な施設が整っている。

新校舎の完成により、大町岳陽高の教育環境が大きく改善された。今後、生徒たちはより良い学習環境で学ぶことができるようになる。また、新校舎は、地域社会との連携を強化するため、地域住民の方々も積極的に利用できるようになっている。

新校舎の完成は、大町岳陽高の歴史に大きな一葉を塗り替えた。今後、生徒たちは、この新しい校舎で、より多くの学びと成長を積み重ねていくことになるだろう。

大糸タイムス 掲載記事
平成 30 年 6 月 17 日付

- 7. 31 ・役員会
- 8. 6～8. 7 ・2018 信州総文祭（囲碁部門）運営サポート担当生徒への支援
- 10. 28 ・安曇野支部総会
- 11. 12 ・第 4 回大町岳陽高等学校開校記念事業実行委員会
- 11. 16 ・長野支部総会
- 3. 1 ・大町岳陽高等学校卒業式

平成 31 年度
(令和元年度)

- | | |
|------------|-----------------|
| 2019. 4. 5 | ・大町岳陽高等学校入学式 |
| 5. 20 | ・役員会 |
| 5. 25 | ・松本支部総会 |
| 6. 22 | ・評議員会 |
| | ・大町岳陽高等学校同窓会総会 |
| | ・大町岳陽高等学校同窓会講演会 |

講師 吉丸昌昭氏（映像プロデューサー 吉丸一昌顕彰会代表）

大町高等学校（第11回卒） 昭和34年3月卒業

演題 「Unbelievable (アンビリーバブル) 信じられない！話」



令和元年度 同窓会総会

大糸タイムス 掲載記事
令和元年6月23日付

- 11. 10 安曇野支部総会
 - 11. 22 長野支部総会
 - 3. 3 大町岳陽高等学校卒業式
 - 3. 13 役員会

令和2年度

2020. 4. 4 ・大町岳陽高等学校入学式
5. 8 ・役員会（5.8付郵送、5.19書面決議）
5. 21 ・評議員会（5.21付郵送、6.2書面決議）
6. 13 ・大町岳陽高等学校同窓会総会
 （～6.22まで会員から質問や意見を集約、7.10書面決議）
 ・大町岳陽高等学校同窓会講演会【中止】
 講師 平林克敏氏（登山家 住友ゴム工業（株）元専務取締役）
 大町高等学校（第5回生卒） 昭和28年3月卒業
 演題 「半世紀の登山に思う —行動・体験・創造—」
7. 10 ・役員会
8. 22 ・松本支部総会
3. 4 ・大町岳陽高等学校卒業式

令和3年度

2021. 4. 6 ・大町岳陽高等学校入学式
4. 28 ・役員会
5. 18 ・役員会
5. 25 ・松本支部総会
6. 12 ・評議員会（5.31付郵送、6.12書面決議）
 ・大町岳陽高等学校同窓会総会
 （～6.16まで会員から質問や意見を集約、書面決議）
 ・大町岳陽高等学校同窓会講演会【中止】
 講師は前年度に続き平林克敏氏に依頼。中止であったが11月28日
 に大町山岳博物館創立70周年記念講演会で講演された。
10. 20 ・役員会
2. 15 ・役員会（2.15付郵送、2.28書面決議）
3. 4 ・大町岳陽高等学校卒業式

【同窓会創立5周年記念事業】

- 1 金森宰司氏が大町岳陽高等学校へ絵画寄贈（2021.12.24）
- 2 同窓会旗・校銘旗を制作。校銘旗を大町岳陽高等学校へ寄贈
- 3 記念誌WEB版発行（2022.3）

同窓会創立5周年記念事業

1 金森宰司氏 絵画寄贈

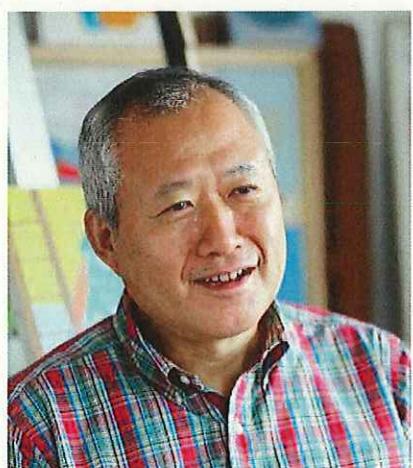


ライフ「ライブハウスのステージ」

F 150号 (2,273×1,818 mm)

金森 宰司（かなもり さいじ）氏 プロフィール
個人ホームページから引用

- 1949 長野県に生まれる
- 1968 大町高等学校（第20回）卒業
- 1975 東京藝術大学美術学部油絵科を卒業、大橋賞を受賞
- 1977 東京藝術大学大学院（油絵専攻）修了



- 1982 「新制作協会第 46 回展」（東京都美術館）新作家賞受賞。同第 48 回展、第 50 回回に新作家賞受賞
- 1983 「'83 東京セントラル美術館油絵大賞展」（東京セントラル美術館）佳作賞受賞
- 1984 「第 19 回昭和会」（日動画廊／銀座）優秀賞
「第 8 回具象現代展」（松坂屋上野店／上野）招待出品、大賞受賞
- 1987 「新制作協会第 51 回展」（東京都美術館）新制作協会会員推举
- 1989 「第 32 回安井賞展」（西武美術館）入選、賞候補となる
文化庁芸術家在外研修員として渡仏、1 年間フランスに滞在
- 1992 パリ日動画廊で開催する個展の作品制作のため、パリに 9 カ月滞在
- 1993 『金森宰司画集』が求龍堂から刊行される
- 1996 パリ日動画廊で開催する個展の作品制作のため、パリに 3 カ月滞在
「第 3 回小磯良平大賞展」入選
- 1998 ガラス立体〈リズムの会話（4 体 1 組）〉制作のため、ベネチアを訪れる
熊谷守一大賞展（熊谷守一美術館）大賞受賞
「第 4 回小磯良平大賞展」入選
- 1999 「第 14 回国民文化祭・ぎふ 99 応援事業」参加
こどものとも絵本『黒いマントのおじさん』（福音館刊行）制作
- 2000 絵本『くろいマントのおじさん』（福音館刊行）がイタリア ボローニャ児童賞大賞受賞。大賞受賞を記念してハードカバー出版となる。
- 2001 『金森宰司画集 II』が求龍堂から刊行される
- 2004 「両洋の眼」展
- 2006 個展（高島屋巡回展）
- 2007 「文化庁芸術家在外研修制度 40 周年記念「旅」展」
- 2011 個展（日本橋三越） 同 2015 年、同 2019 年に開催
- 2012 「DOMAN・明日」45 周年特別展
- 2016 「Artist Today 2016 4 人展」（銀座日動画廊）
- 2017 文化庁 新進芸術家海外研修制度 50 周年記念展 美術館巡回（6 都市）
- 2020 金森宰司古希記念展（日本橋高島屋）開催
金森宰司個展多数
みゆき画廊、日動画廊、ギャラリーピクチャー、ギャラリー椿、山手画廊、
松本井上百貨店、そごう、静岡松坂屋などで開催

○所属 新制作協会会員
美術家連盟委員

○作品収蔵 熊谷守一つけち記念館
笠間日動美術館
佐久市立近代美術館
市立大町図書館

2 同窓会旗・校銘旗制作 校銘旗寄贈



素材 テトロンツイル 大きさ 1,000×1,500 mm

大町岳陽高等学校同窓会創立5周年記念誌

発行日 2022年（令和4年）3月発行

編集・発行 大町岳陽高等学校同窓会事務局

【お問合せ窓口】

〒398-0002 長野県大町市大町 3691-2

電話・FAX 0261-23-3062

E-mail omachihi@yahoo.co.jp

事務局開設（月曜—金曜の午後1時30分から5時まで）